

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎山岸仁美 津田智子 毛利聖子			

授業の目的・概要	看護実践を導く理論の発展過程をたどりながら、日々の看護活動にとっての実践方法論の必要性及び看護実践そのものを学的対象としてとらえるための研究方法論について探究する。
授業計画	<p>1-2回 ガイダンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護実践の特性と理論とは何かについて 2 看護技術とは何かについて 3 実践領域における理論の発展過程について 4 精読の方法について <p>3-10回 F. Nightingale看護論について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『看護覚え書』を精読し、『原文看護覚え書』と照合しながら意味内容と論理構造を取り出し、発表・討議を行う。 2 F. Nightingaleが示した<三重の関心>について、具体的な看護現象とつなげて討議を行う。 3 看護実践における実践方法論の必要性について、研究成果をもとに討議を行う。 <p>11-15回 看護学の発展の方向性について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護諸理論が生まれるまでのプロセスを看護学の発展過程とかさねながら理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各理論が拠って立つパラダイムと理論を構成する主要概念の意味をむすびつけて理解する。 ・研究成果をもとに討議を行う。 2 『科学的看護論』をもとに看護学の発展の方向性を探究する。
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論は看護実践そのものから一般化されてきた認識であることがわかる。 2. 看護技術は看護観の表現技術であることを理解する。 3. 実践方法論の必要性について理解する。 4. 看護学研究に不可欠な研究方法論について理解する。 5. 看護一般論の有用性について、自己の実践とむすびつけて理解できる。
評価方法	授業への参加状況（50%）、レポート（50%）による総合評価
教科書	<p>フローレンス・ナイチンゲール：看護覚え書 改訂第7版 現代社 F. Nightingale: NOTES ON NURSING (原文 看護覚え書) 原文看護学選集! 現代社 薄井坦子：科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会 そのほか、資料については随時配布</p>
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎山岸仁美 津田智子 毛利聖子			

授業の目的・概要	実践事例の構造分析に取り組み、実践方法論と研究方法論の修得過程を高める。		
授業計画	1回	ガイダンス 学習内容のオリエンテーションと学習課題の確認	
	2-20回	看護実践の再構成と論理の抽出：実践方法論および研究方法論の意識的適用に取り組む 1 自己または他者の看護実践の再構成を行う。 2 目的意識に照らして、論理を抽出する。 3 抽出した論理から実践方法論の修得過程を自己評価する。 4 上記の検討を積み重ね（研究方法論の意識的適用）、実践方法論の修得過程を高めるための方向性を明確にしながら、実践方法論の意識的適用過程を辿る。	
	21-30回	自己の問題意識にそって文献検討を行い、研究課題としての意義を検討し、テーマを明確化し、研究方法を検討する 1 体験に根ざした看護現象から生まれた自己の問題意識に関連する先行研究を選定する。 2 選定した論文を精読し、どのような方法を用いて、どのようなことが明らかになっているのか、自己の問題意識との関連を検討し、看護学研究としての意義を探究し、研究課題を定めていく。 3 研究課題を解明するために必要な研究方法を検討する。 <上記について、プレゼンテーションを行い、討議を積み重ねる>	
授業形態	演習・発表・討議		
到達目標	1 自己または他者の看護実践における看護理論の適用過程を辿る。 2 自己または他者の看護実践から論理を抽出し、実践方法論の修得過程を高めるための方向性を定める。 3 自己の研究課題について、研究方法論に照らして、文献検討を行い、テーマ・目的・研究方法を検討して研究計画を作成する。		
評価方法	参加状況（20%）、レポート（40%）、研究計画書（40%）による総合評価		
教科書	薄井坦子編：ナイチンゲール看護論の科学的実践（1）～（5）現代社		
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修	可 ただし、関連科目である基礎看護学特論を履修しておくこと		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎栗原保子			
		1 Semester	30時間

授業の目的・概要	教育とは何か、看護学教育とは何かについて、関連する諸理論をもとに講義する。看護教育制度の変遷を概観し、学問としての成立と専門職者育成のための制度整備の過程を理解することを通して、看護学教育の特質について考察する。看護実践能力の向上につながる教育・指導方法について、学生の自己評価能力の育成をめざした教授－学修過程の実際から講義する。また、指導力の向上に重要な意味を持つ指導観形成については、臨地での実習指導場面および自己の指導過程の分析を通して、指導観形成につながる方法への理解を深める。
授業計画	<p>1回 【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の紹介と学習課題の確認 ・看護教育に関する諸理論や主要概念について <p>2－4回 【看護学教育と教育法規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学教育とは ・看護学教育と教育法規について ・日本の看護学教育制度の変遷とその特色 ・諸外国の看護学教育制度について ・看護学教育の課題について <p>5－9回 【看護教育方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の概念と諸理論 ・看護学教育における＜教授－学修＞過程の特質について ・教えることと学ぶこと ・わかることとは ・授業設計と指導案作成、教材研究について ・授業分析・評価について ・授業設計と指導案作成の実際として、グループワークにより指導案を作成し、模擬授業を行う。 <p>10－14回 【看護学教育における看護学実習の位置づけと実習指導論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学教育における看護学実習の位置づけ ・臨地実習指導論について Ernestine Wiedenback 「臨床実習指導の本質」より ・臨地実習の＜教授－学修過程＞の構造を理解し、学生の看護の学びを支援する指導のあり方について理解を深める。他者の実習指導の実際から、臨地実習の＜教授－学修過程＞の構造を理解し、指導過程を再構成する方法、看護観に照らしながら評価・分析する方法について理解する。上記の実習指導論を活用して、自己の実習指導の実際から、問題意識にそって具体的な指導場面をとりあげ、指導過程の評価・分析を行う。一連のリフレクション活動から得ることができた自己の指導上の実践知について、プレゼンテーションを行う（グループ討議）。 <p>15回 【まとめ】</p> <p>以上の学修成果をもとに、関心をもった論文を取り上げ、プレゼンテーションを行う（グループ討議）。</p> <p>講義資料及び文献等は随時提示する。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学教育の特質とその課題について説明できる。 2. 看護学教育に関連する法規を説明できる。 3. 日本の看護教育制度の変遷とその特色を説明できる。 4. 看護教育方法と評価の視点について説明できる。 5. 授業設計・授業分析への理解が深まる。 6. 実習指導のあり方について理解を深め、臨地実習指導論に基づく指導過程の分析・評価をすることができる。
評価方法	授業への参加状況・姿勢(20%)、課題のプレゼンテーション内容(40%)、レポート(40%)
教科書	<p>薄井坦子：科学的看護論 第3版、日本看護協会出版会、1997.</p> <p>薄井坦子：Module方式による看護方法実習書、現代社、2004.</p> <p>杉森みど里、他；看護教育学 第6版、医学書院、2016.</p> <p>ドナルド・A・ショーン：省察的実践とは何か、鳳書房、2007.</p>
参考書・参考文献	適宜照会
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	科目等履修生は、基礎看護学関連領域の授業参加ができる者とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎栗原保子			
		2 Semester	60時間

授業の目的・概要	看護学教育方法論特論で学んだ内容を踏まえて、看護実践能力の形成及び向上をめざす教育方法について、文献講読・討議、実際の教授―学修過程の分析・評価を通して理解を深め、看護学教育の課題について考察する。また、文献講読・クリティークを通して、研究計画立案に向けた検討を行う。
授業計画	<p>1回 【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の紹介と学習課題の確認 <p>2―16回 【看護教育方法について理解を深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業リフレクション」とは (計5回) 前期で学修した内容をもとに、授業設計と指導案作成に取組み、模擬授業を行う。授業分析・評価を共有し、授業リフレクションの経験がもたらす意味について考察を深める。以上の内容については、先行研究と比較・検討し、レポートにまとめ提出する。 ・前期で学修した臨地実習指導論を活用し、グループ学習指・個別指導の実践事例から、＜教授―学修過程＞の構造理解をより深める。自己の教育実践（PNSの事例でもよい）を分析対象にし、プレゼンテーションを行う（グループ討議）。その際、基礎看護学関連領域の授業にティーチングアシスタントとして参加する。 以上の内容については、先行研究と比較・検討し、レポートにまとめ提出する。(計5回) ・教材研究について (計5回) 教材作成 <p>17―30回 【研究論文のクリティーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文のクリティーク ・看護学教育に関連する研究課題について国内外の文献レビューを行い、自己の研究課題に関連する研究の特徴とその課題を考察し、プレゼンテーションを行う（グループ討議）。
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習指導論を自己の指導過程に適用するための視点を説明できる。 2. 自己の指導過程を再構成し、分析・評価する方法を修得する。 3. 指導者としての自己の学習課題を明らかにする。 4. 看護学教育関連の研究課題の現状と動向を説明できる。 5. 論文クリティークの方法について説明でき、クリティーク能力を身につけることの重要性に気づくことができる。
評価方法	<p>授業への主体的参加を重視する。</p> <p>授業への参加状況・姿勢(40%)、課題別レポートの内容(60%)</p>
教科書	<p>(参考書)</p> <p>薄井坦子：科学的看護論 第3版、日本看護協会出版会、1997.</p> <p>薄井坦子：Module方式による看護方法実習書、現代社、2004.</p> <p>D. F. ポーリット&C. Tベック著：看護研究 原理と方法 第2版、医学書院、2010.</p> <p>山川みやえ、他：よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2016.</p>
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	科目等履修生は、基礎看護学関連領域の授業参加ができる者とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎島内千恵子、邊木園 幸			
		1 Semester	30時間

授業の目的・概要	自然界における微生物、人体の常在細菌叢の役割、病院内及び市中の感染で問題となっている種々の微生物の特徴や感染経路を踏まえて、感染対策について検討する。
授業計画	1-8回 【病院内および市中の感染で問題となっている微生物の性質】 自然界における微生物の分布と人体の常在細菌叢の役割、病院内および市中の感染で問題となっている微生物の性質 (存在する場所、感染経路、抵抗性、病原性など) 9-15回 【感染対策】 滅菌と消毒 スタンダードプリコーション 感染経路別対策 予防接種 化学療法 サーベイランス 院内教育 Infection Control Nurseの役割 感染症を持つ患者・家族の心理とその援助
授業形態	講義
到達目標	1. 自然界における微生物、人体の常在細菌叢の役割の役割を理解し、病院内および市中の感染で問題となっている微生物について、その特徴を理解する。 2. 感染対策について理解し、適切な実施ができるようになる。
評価方法	授業への参加状況(発表・討論)70%、レポート 30%
教科書	
参考書・参考文献	・吉田眞一 他 編「戸田新細菌学」(第34版) 南山堂, 2013 ・斧康雄編「医療関連感染対策なるほどABC」改訂2版 2013 ・藤本秀士編「わかる! 身につく! 病原体・感染・免疫」改訂3版, 南山堂, 2017 ・土肥義胤他編「スタンダード微生物学-保健微生物学・感染症学」第2版, 文光堂, 2008 ・坂本史衣著「基礎から学ぶ医療関連感染対策-標準予防策からサーベイランスまで」改訂第3版, 南江堂, 2019 その他、適宜紹介する。
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称：感染看護学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	選択
担当教員			
◎島内千恵子、邊木園 幸			
		1, 2セメスター	60時間

授業の目的・概要	<p>人体及び環境からの細菌の検出、同定、薬剤感受性検査、菌株の同一性の識別、洗浄・消毒の効果測定などの実験を行い、検体の処理・取り扱い法、無菌操作など感染制御のための看護実践で必要とされる技術、並びに感染看護学の研究を行うために役立つ方法・技術について検討する。</p> <p>感染看護学領域の問題、研究の動向をふまえて、自己の研究課題を明確にし、研究方法を検討するために、感染看護学領域の国内外の文献の抄読を行い、討論する。</p>
授業計画	<p>1-4回 人体及び環境からの細菌の検出・グラム染色・同定</p> <p>5-8回 洗浄・消毒、手洗い・手袋着用、口腔ケア等の効果測定</p> <p>9-12回 細菌の薬剤耐性検査・同定</p> <p>13-16回 DNA型別など微生物の同一性の識別、細菌の遺伝子の伝達</p> <p>17-30回 感染看護学領域の国内外の文献の抄読・討論</p>
授業形態	演習・実験
到達目標	<p>人体及び環境からの細菌の検出、同定、薬剤耐性検査、同一性の識別、洗浄・消毒の効果測定などの実験を行い、微生物の性質や感染対策への理解を深める。検体の処理・取り扱い法、無菌操作など感染制御のための看護実践で必要とされる技術、並びに感染看護学の研究を行うために役立つ方法・技術について、理解を深める。</p> <p>感染看護学領域の国内外の文献の抄読、討論し、感染看護学領域の問題、研究の動向をふまえて、自己の研究課題、研究方法を明確にする。</p>
評価方法	演習・実験への参加状況（取り組み・討論・発表）50%、レポート50%
教科書	
参考書・参考文献	東京大学医科学研究所学友会編「微生物学実習提要」丸善
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎田中美智子			

授業の目的・概要	多様な生活を営む人の健康は遺伝的なものだけでなく、環境や生活行動などによっても影響を受けている。外部からの刺激に対して、人がどのように反応するのか、また、どうしてそのような反応をするのかについて明らかにしていく。健康を維持・増進していくための根拠ある支援を検討する。看護学の研究を主に実験的手法を用いて行う様々な研究方法について講義を行う。研究テーマに関連する文献収集、文献レビューを行い、実験的研究をデザインすることについて学ぶ。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 研究デザインについて（講義）</p> <p>2-4回目 研究デザイン① 実験的研究デザイン：文献の目的・仮説から実験計画を立てる（講義・発表）</p> <p>5-6回目 研究デザイン② 実験的研究デザイン：自分の立てた実験計画と論文の計画を比較、違いや類似点などを明らかにする。（講義・ディスカッション）</p> <p>7-11回目 研究課題に関連する文献抄読 テーマが出てこない場合は、睡眠-覚醒サイクル・呼吸機能・循環機能・ストレス・加齢などについて検討する。それぞれの文献から研究目的（仮説）・計画・結果を読み取り、目的に対して、適切な研究計画が立てられているか、結果に対して考察が適切であるかなど、論文をクリティークする。（講義・ディスカッション）</p> <p>12-14回目 研究課題に関連した研究計画 文献抄読を参考にし、自分の課題の研究計画を検討する。（講義・発表）</p> <p>15回目 まとめ 自ら作成した研究計画に関して発表し、ディスカッションする。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<p>実験的手法などを用いる研究方法の利点について述べるができる。</p> <p>研究における概念図を作成することができる。</p> <p>自らの介入研究の内容を説明することができる。</p> <p>文献を収集、検討することで、自らの研究内容を主体的に探求することができる。</p> <p>研究からもたらされるアウトカムに関しての意義について言及できる。</p>
評価方法	課題レポート（50%）、講義の態度及び参加度（15%）、発表（プレゼン）（35%）
教科書	特になし
参考書・参考文献	参考文献：Stephen B Hulley et al, Designing Clinical Research. 木原雅子, 木原正博訳. 医学的研究のデザイン. メディカル・サイエンス・インターナショナル, Frederick Grinnell著, The Scientific Attitude, 白楽ロックビル訳 グリンネルの研究成功マニュアル, 共立出版, 福原俊一著, 臨床研究の道標, iHope international.
履修条件	特になし
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称：健康増進看護学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎田中美智子、藏元恵里子			

授業の目的・概要	看護学の研究の中で主に健康維持増進につながる研究について、実際の測定・分析法及びデータ解析技術について演習を行い、これらの手法を修得する。
授業計画	<p>1-2回目 オリエンテーション他 オリエンテーションと分析、測定方法とデータ解析技術について（講義）</p> <p>3-20回目 生理学的測定方法 脳波の測定と解析 筋電図の測定と解析 循環動態の測定と解析 呼吸機能の測定と解析 体温調節関連の測定と解析 その他の測定方法と解析</p> <p>21-28回目 生化学的測定方法 ホルモンの測定・解析 酵素活性の測定・解析 その他の測定</p> <p>29-30回目 まとめ 自分の測定結果をプレゼンテーションする。</p>
授業形態	
到達目標	測定、分析方法及び解析方法について具体的に説明できる。 測定、分析、解析方法を的確に選び、遂行できる。測定結果を解釈し、考察できる。 自らの研究目的を描きながら、研究方法やその結果について説明することができる。 正確に測定することができる。
評価方法	課題レポート（40%）、講義の態度・参加度（20%）、発表（プレゼン）（25%）、その他（測定）（15%）
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
履修条件	健康増進看護学特論を履修していること
科目等履修	不可
履修上の留意点	各項目毎にレポートを提出
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎山岸仁美 津田智子 毛利聖子			

授業の目的・概要	看護理論及び看護技術論に関する研究テーマの明確化、研究計画書の作成、研究素材の収集・分析、論文作成までの過程について指導する。 全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう支援する。		
授業計画	1-10回	研究課題の明確化 自己の問題意識にそって文献検討を行い、研究課題を焦点化する。	
		<ゼミでの検討を積み重ねる>	
	11-30回	研究計画書の作成と倫理審査を受ける ・研究課題を解決するための研究対象および研究方法を検討する ・意味あるデータを収集するための研鑽を重ねる ・研究計画書を完成させ、研究倫理審査を受ける	
		<ゼミでの検討を積み重ねる>	
	31-120回	研究の実施 ・研究計画にそって、データを収集する ・収集したデータについて、信頼性・妥当性を高めながら分析を行う。	
		<ゼミでの討議を積み重ね、分析の信頼性・妥当性を確保する>	
	121-150回	論文の作成 ・研究目的に照らして、考察の方向性を定め、文献検討を行い分析結果を解釈する。 ・論文としての全体構成を検討し、一貫した論旨で論述できているか吟味しながら、修士論文を完成する。	
授業形態	演習・研究		
到達目標	1 自己の問題意識に関連する文献検討を行い、研究課題を明確にすることができる。 2 研究課題の解決に向けて、適切な研究方法を選択し、研究計画を立てることができる。 3 研究計画にそって、意味ある研究データを収集し、分析を行い、論文を完成することができる。		
評価方法	研究計画書（15%）、研究方法の的確さ（15%）、最終論文（70%）		
教科書	適宜提示する		
参考書・参考文献	適時提示する		
履修条件	基礎看護学特論および基礎看護学演習を履修していること		
科目等履修	不可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎栗原保子			

授業の目的・概要	研究テーマの明確化に取り組み、広く認識されている文献の中から研究テーマに関連した文献検索・検討の結果から、研究テーマ、研究の方向性、仮説の設定、研究方法を検討する。研究計画書を作成し、データ収集・分析、論文の作成、研究発表までの過程について指導する。また、指導においては、看護教育者としての倫理観形成を促すとともに、看護学研究における倫理指針等を踏まえ、看護学研究者としての倫理観形成を支援する。
授業計画	<p>1回 【導入】 ・授業計画について</p> <p>2～29回 【研究テーマの設定】 研究課題を明確化し、研究のテーマとして明文化する。 【文献検討、仮説の設定】 看護教育学関連領域で研究論文として広く認識されている文献の中から、研究テーマに関連する種々の文献を検索し論文クリティークを行う。自己の研究テーマが研究として妥当かを検討するとともに、研究の方向性、仮説を設定する。 【研究方法の検討】 研究テーマを絞り込み、研究目的を明らかにする。文献検討の結果を参考に、本研究を進めるにあたり妥当な方法を検討する。</p> <p>30～39回 【研究計画書の作成 研究倫理委員会への審査申請】 研究テーマ、目的、方法を定め、研究計画書を作成する。本学の研究倫理審査委員会へ必要書類を提出し、審査を受ける。</p> <p>40～69回 【研究データの収集】 研究計画に則し、データ収集を行う。</p> <p>70～119回 【研究データの分析】 収集したデータを整理し、計画した分析方法にそって分析を行う。分析の妥当性については、分析・討議を繰り返し行い、妥当性を確保する。考察の方向性を考え、必要時文献検索を実施しながら分析内容を目的に則して解釈する。</p> <p>120～150回 【論文の作成】 論文の全体構成を検討し、論文としてまとめる。尚、この過程においても、データと論理の整合性を検討しながら論述する。</p>
授業形態	演習
到達目標	自己の研究課題にそった研究方法を明らかにし、研究の実施、結果の分析を行い、それに基づいて研究論文を作成する。
評価方法	研究に臨む姿勢、論文内容、研究発表内容、論文審査結果
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	国内外の関連した研究の動向を把握しておく。
備考・メッセージ	

講義科目名称：基礎看護学特別研究（感染看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎島内千恵子、邊木園 幸			

授業の目的・概要	感染看護学に関する研究テーマとその研究法について、文献検討、予備実験等を通して明確にし、研究計画立案、データ収集・分析を行い、論文作成し、発表する。全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう指導する。		
授業計画	1年次	感染看護学に関する研究テーマとその研究法について、文献検討、予備実験等を通して明確にしていく	
	2セメスター	研究計画立案 倫理審査	
	3セメスター	研究題目提出、 研究実施（データ収集・分析）	
	4セメスター	論文作成、口頭発表	
授業形態			
到達目標	研究テーマについて十分な文献検討や予備実験を行い、研究計画立案、データ収集・分析、論文作成、発表ができる。		
評価方法	論文・発表（審査・最終試験）		
教科書			
参考書・参考文献			
履修条件			
科目等履修	不可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎田中美智子			

授業の目的・概要	ストレッサーの多い環境の中で、ストレッサーによって生じる生体の反応は何か、その反応が生じた仕組みについて明らかにし、ストレス反応の緩和に必要なケアを考える。それにより、健康維持増進の支援についてエビデンスを見出し、論文にまとめる。論文作成の全過程において対象への倫理的配慮ができる。		
授業計画	1-10回	研究課題の明確化 自身が取り組む関連の文献を参考に研究課題を検討する。	
	11-30回	研究計画書を立案 ・研究デザインの選択 ・対象者の選択 ・データ収集方法及びデータの分析方法の検討 ・プレテストの実施及びデータの分析方法の修得 ・研究計画書の作成	
	31-40回	研究倫理申請書の作成 ・申請書の作成 ・申請後の研究計画の見直しなど	
	41-120回	研究の実施 ・研究計画にそって計画を実行する。 1. 研究協力の依頼 2. データ収集 3. データ分析 4. 結果の解釈 5. 分析結果の考察	
	121-150回	修士論文の作成 ・緒言から考察までの一連の流れで、論文を執筆し、作成する。 ・論文の結果を表す図表を作成する。	
授業形態	演習・研究		
到達目標	1. 研究課題に関連する文献検討を行い、研究の動向を探索し研究課題を明確にすることができる。 2. 明確化した研究課題に関して、適切な研究方法を選び、研究計画を立てることができる。 3. 明確化した研究課題に関して、研究を実施し、論文を完成することができる。		
評価方法	研究計画書（15%）、研究方法の的確さ（15%）、最終論文（70%）		
教科書	適宜提示		
参考書・参考文献	適宜提示		
履修条件	健康増進看護学特論及び健康増進看護学演習を履修していること		
科目等履修	不可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎長鶴美佐子 濱寄真由美			
応用看護学分野	母子看護学・助産学領域	30時間	

授業の目的・概要	人間が持つ「いのちを次代へとつなぐ素晴らしい働き」、いわゆる生命の連続性に関わる様々な健康問題や課題について、生活過程、家族、教育、社会、文化などの幅広い視点からその成り立ちや問題構造などを学ぶ。その上で、生命の連続性に関わる看護の役割と方向性、求められる研究について理解を深める。講義方法は、文献検討、討議、支援の実際の見学などを予定している。
授業計画	<p>1-2回 ガイダンス・「生命の連続性と健康問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習目標・目的、学習課題と進め方について確認する。 ・生命の連続性に関わる人々の身体的・心理的・社会的発達と特徴と、近年生じている生命の連続性を脅かす健康問題について理解を深めていく。 <p>3-4回 「ライフサイクルから見た生命の連続性支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルから見て、生命の連続性を支える働きがどのように発達し衰退していくのかを概観する。次に、この働きが著しく発達し開花する思春期・性成熟期に焦点をあてながらこの時期の人々への理解を深める。 <p>5-13回 「生命の連続性を脅かす健康問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の連続性を脅かす代表的な健康問題について、当事者の認識、生活過程や家族関係、社会背景などの視点から理解を深める。さらに看護実践の現状と課題から、看護の方向性について検討する。 <p><主な健康問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月経に関連する問題（月経困難症・子宮内膜症・月経不順などの問題） ・望まない妊娠と人工妊娠中絶 ・性感染症 など <p>14-15回 「生命の連続性と研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の学習を踏まえながら生命の連続性支援のために取り組むべき研究課題と求められる研究的視点について検討する。
授業形態	講義
到達目標	<p>① 生命の連続性に関わる健康問題について、生活過程、家族、教育、社会、文化などの視点からその成り立ちや問題構造などを理解する。</p> <p>② 生命の連続性に関わる看護の役割とその方向性について理解を深める。</p> <p>③ 生命の連続性支援のための研究課題と研究的視点について検討する。</p>
評価方法	授業への参加度（70%）、レポート（30%）
教科書	指定なし
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	機会があれば思春期健康支援の実際の見学を入れる予定である。
備考・メッセージ	「問題意識を持ち自ら学ぶ」を基本方針とした授業の展開です。状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎長鶴美佐子 濱寄真由美			
応用看護学分野	母子看護学・助産学領域	60時間	
授業の目的・概要	生命の連続性支援に関係する研究論文の講読を通して、研究についての理解を深める。また、自己の研究テーマを追究する上で必要とされる研究手法への理解を深め、実践に向けた基礎的能力を培う。		
授業計画	<p>1-2回 ガイダンス・「文献とは」</p> <p>① 学習目標・目的、学習課題と進め方について確認する。 ② 看護研究のための文献について理解する。 研究における文献の意義、種類、検索方法、文献の読み方（文献のクリティークを含む）、文献の活用と管理、等。</p> <p>3-15回 「論文を読む」 論文の購読とクリティーク</p> <p>① 論文の購読 ② 各自が興味ある（原著）論文を読み、紹介する。 （研究目的・方法、看護の意義、オリジナリティ、明らかになったことや限界など） ③ 論文のクリティークを行う このプロセスの中で「様々な研究方法」や「研究の進め方」論文作成方法 「研究知見の社会化」などについて学習していく。</p> <p>16-30回 文献レビュー</p> <p>① 研究における文献レビューの必要性と方法 ② 取り上げたい研究課題に関する文献レビューを行いレポートする。 これまでどのような研究がなされ、どこまで明らかになっているか、残された課題は何か、なぜそれが明らかにされていなかったのかななどを検討する。</p>		
授業形態	講義		
到達目標	<p>①看護研究における文献の意義、種類、検索方法、読み方、活用方法等について理解を深める。 ②研究論文の講読を通して、様々な研究方法、実践方法、研究論文作成や社会化のプロセスなどについて理解する。 ③自己の研究課題に関する文献レビューを行い、その必要性と方法を理解する。</p>		
評価方法	授業への参加度50%、レポート50%		
教科書	適宜紹介する		
参考書・参考文献	適宜紹介する		
履修条件	母性看護学・助産学特論を履修していること		
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ	論文を読みこむことを通して研究する力を身につける科目であり、積極的な学修参加が求められます。状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎久野暢子、矢野朋実、山岡深雪（研究指導補助教員）			

授業の目的・概要	健康障害を抱える成人とその家族を理解し、質の高い看護援助を提供する上で基礎となる看護理論、看護モデル、概念等について、講義や討議などから理解を深める。
授業計画	<p>1-2回 【ガイダンス】 【理論・モデルの概要の理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の紹介と学習課題の確認 ・「中範囲理論」とは ・「エンパワーメント」の概要と事例への適用について学ぶ。 <p>3-12回 【理論・モデルの概要の理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「病気の不確かさ理論」 ・「症状マネジメントモデル」 ・「リフレクション」 ・「アンドラゴジー（成人教育）」 ・「ヘルスピリーフモデル」 ・「病みの軌跡」 <p>の中から複数の中範囲理論を選択し、概要と事例への適用について学ぶ。</p> <p>13-15回 【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ理論・モデルの自己の研究課題への応用についてプレゼンテーションする。
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を抱える成人とその家族への看護援助に関連する看護理論・看護モデル・概念を理解できる。 2. 学んだ看護理論・看護モデル・概念を看護実践や看護研究への適用の視点から考えることができる。
評価方法	授業への参加態度・プレゼンテーション（70%）、レポート（30%）
教科書	野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論 メジカルフレンド社
参考書・参考文献	随時紹介します。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	履修者の研究課題により学修する中範囲理論や順番を考慮します。 履修者と相談のうえ、遠隔授業とする場合もあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎久野暢子、矢野朋実、山岡深雪（研究指導補助教員）			
授業の目的・概要	健康障害を抱える成人・家族、看護援助、研究方法および自己の研究課題に関連するテーマでの文献クリティックや討議を行い、自己の考えをより多角的・多面的に深める。またこの過程を通じて、研究計画書作成の基礎的能力を養う。		
授業計画	<p>1回 【ガイダンス】 ・授業内容の紹介と学習課題の確認</p> <p>2-11回 【先行研究のクリティック】 ・成人看護に関連した先行研究をクリティックする。</p> <p>12-23回 【成人看護における課題の検討】 ・成人看護において関心のある課題についてレビューし、現状や残された課題は何かなどをまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>24-30回 【研究課題や研究デザインの検討】 ・成人看護における特定のテーマや課題が自己の研究にどのように関連しているか、またその課題に関する先行研究の結果をどのように自己の研究に取り入れることが可能かについて、本科目での学びを活かしてまとめ、表現する。</p>		
授業形態	演習		
到達目標	<p>1. 健康障害を抱える成人とその家族への看護援助に関連した研究論文の文献クリティックができる。</p> <p>2. 1を通じて、自己の研究計画書を洗練するための検討ができる。</p>		
評価方法	授業への参加態度・プレゼンテーション（70%）、レポート（30%）		
教科書			
参考書・参考文献	D. F. ポーリット&C. T. バック著：看護研究 原理と方法 第2版 医学書院 坂下玲子他：系統看護学講座別巻 看護研究 医学書院 山川みやえ，牧本清子：研究手法別のチェックシートで学ぶよくわかる看護研究論文のクリティック 日本看護協会出版会		
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ	検討する文献は履修者が用意し、事前に提示してください。		

講義科目名称：老年看護学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎重久加代子			

授業の目的・概要	社会的自立を果たした人々が、加齢変化や健康上の問題を抱えながら、自分の持てる力を生かして日常生活を営むための看護に必要な看護理論や生老病死について学ぶ。
授業計画	<p>1回 ガイダンス 研究の動機について</p> <p>2回～7回 「持てる力を生かした日常生活とは」 加齢変化や健康上の問題が日常生活におよぼす事柄について検討 持てる力を生かした日常生活について検討</p> <p>8回～11回 「生老病死とは」 生老病死について学習し、自分の考えをまとめ・発表</p> <p>12回～14回 「ケアリングと看護実践」 ケアリングについて学習し、これまでの看護実践より検討</p> <p>15回 「まとめ」 学びの総括</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢変化や健康上の問題が日常生活におよぼす事柄について理解を深める。 2. 持てる力を生かした日常生活について考えることができる。 3. 生老病死について学びを深め、自分の考えを述べるができる。 4. ケアリングについて理解を深める。
評価方法	授業への取り組み（50%）、レポート（50%）より評価する。
教科書	特に指定しない。
参考書・参考文献	随時紹介する。
履修条件	なし
科目等履修	
履修上の留意点	なし
備考・メッセージ	主体的な学習への取り組みが求められます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎重久加代子			

授業の目的・概要	関心のあるテーマに沿って文献検索、研究論文クリティークを通して、既存の知見と研究手法、看護への理解を深める。また、研究に関する倫理指針、データ収集方法及びデータ分析方法について学び、研究計画書を作成する。
授業計画	<p>1回 「ガイダンス」 研究課題について</p> <p>2回～3回 「関心のあるテーマに沿った論文の文献検索」 文献検索を行い、まとめ・発表</p> <p>4回～7回 「論文のクリティーク」 関連する文献のクリティーク（量的研究・質的研究）、まとめ・発表</p> <p>8～11回 「研究のテーマと目的の検討・研究計画書の検討」 文献検討に基づき、研究テーマと目的の検討、まとめ、発表</p> <p>12回～15回 「研究方法と分析方法の検討・研究計画書の検討」 文献、看護研究の方法より学びを深め、研究方法と分析方法の検討、まとめ・発表</p> <p>16回～19回 「文献検索および文献検討・研究計画書の検討」 研究テーマ・目的の検討より、再度文献検索・文献検討を行い、まとめ・発表</p> <p>20回～23回 「研究における倫理的配慮の検討・研究計画書の作成」 研究における倫理的配慮の検討を行い、まとめ・発表 研究計画書の作成・発表</p> <p>24回～29回 「研究計画書の作成・調査の準備」 研究計画書に基づいて、調査の準備 倫理審査の申請書の作成</p> <p>30回 「研究計画書の完成」 研究計画書の見直し、完成</p>
授業形態	集中講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のあるテーマに沿った論文の文献検索を行う。 2. 論文のクリティークを行う。 3. 文献検討を行う。 4. 看護研究に関する本を1冊精読する。 5. 研究に関する倫理指針を理解する。 6. 文献検討に基づき、研究テーマ、目的、方法を検討し、研究計画書を作成する。
評価方法	授業への取り組みと課題の達成状況より評価する。
教科書	特に指定しない。
参考書・参考文献	随時紹介する。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	看護研究の本を繰り返し読み、自分が現在どの位置で、何に取り組んでいるのかを確認しながら、1つ1つ丁寧に進めていきましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎川原瑞代、小野美奈子、川村道子			

授業の目的・概要	健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護の方法について学ぶとともに、看護職固有の機能について追究する。
授業計画	<p>1・2回 【授業オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業目的、すすめ方について ・地域看護の対象と看護の特徴について確認する。 ・地域看護に関わる自己の問題意識を明確化する。 <p>3-8回 【精神的援助を必要としながら地域で生活する人々への看護の方法と看護職固有の機能を理解する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者からの精神的援助を必要とするに至るまでの過程を、社会生活の構成要素の視点から検討する。 ・精神的援助を必要としながら地域で生活する人々の生活実態を文献や事例から整理し、看護職固有の機能を理解する。 ・精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護の方法を明確化する。 <p>9・10回 【在宅療養者とその家族への支援の現状と課題について考察する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸資料より、日本における在宅療養者とその家族への支援の現状と課題を考え、それらを解決する看護の役割や方法について考察する。 <p>11・12回 【在宅療養者の健康と生活を支援するために基盤となる理論や概念を理解する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者の健康と生活を支援するために基盤となる理論や概念を理解する。 <p>13・14回 【訪問看護師の活動事例から学ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護師の活動事例から、在宅看護の基盤となる理論や概念と関連させて考察し、在宅療養者や家族、生活環境や支援システムについてアセスメントする方法を理解する。 <p>15回 まとめ</p> <p>※感染状況により、対面授業ができない場合は遠隔授業により対応する。</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の対象と看護の特徴について、自己の問題意識と重ねて理解する。 2 精神的援助を必要としながら地域で生活する人々への看護の方法について理解する。 3 在宅療養支援における看護の在り方を諸理論や実践事例と重ねながら理解する。 4 地域で生活する人々への支援における看護職固有の機能について理解する。
評価方法	授業への参加状況・プレゼンテーション（60%）、レポート（40%）
教科書	適宜紹介する
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	履修者の専門性を踏まえ授業内容を考慮します。詳細は授業開始後、講義計画で提示します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎川村道子、小野美奈子、川原瑞代			

授業の目的・概要	<p>(オムニバス方式) 健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における看護過程を分析する方法を学ぶ。 (小野) 実践事例を基に看護過程を客観視し分析する力、地域看護を評価する力を高めるとともに、研究能力向上を目指した演習を行う。 (川原) 地域包括システムの概念や発展過程を理解し、文献や自己の実践活動から現状と課題について分析する。また、地域診断や個別事例のアセスメントから健康課題解決に向けPDCAサイクルを基盤とすることの意義を理解する。 (川村) 人間の精神の働きに注目し、人々がどのような状況でも自らの精神を健康に働かせることができる支援について検討していく。検討に相応しい研究論文を講読し、あらゆる人々の精神の健康を高めることに資する研究課題、研究方法について考察する。 (平野) 精神障がい者の生活支援やケアネットワーク形成について考察する。</p>
授業計画	<p>1-7回 【地域看護の概念について理解を深める】 ・地域看護実践、教育、研究を構成する概念を規定し説明する。</p> <p>人間、家族、地域、生活、健康、病気、環境、生活機能、生命力、セルフケア、自己決定、対象特性、看護、地域看護、予防、行動変容、保健指導、看護観、ケアシステム、ネットワーク、連携、ケアマネジメント、社会資源 等</p> <p>8-10回 【地域看護における研究方法について理解する】 ・地域看護における研究方法について理解する</p> <p>11-13回 【健康課題解決に向けて取り組んだ実践を客観視する方法を学ぶ】 ・地域診断や個別事例の看護実践から、対象の健康課題解決に向けた自己の取組を振り返り、健康課題解決に向けPDCAサイクルを回す意義について考察する。</p> <p>14-17回 【地域包括ケアシステムにおける看護の役割について考察する】 ・地域包括ケアシステムの概念を理解し、実践事例や先行研究よりその構築の在り方や現状と課題を考察し、看護者の担う役割について議論する。</p> <p>18-20回 【在宅療養者と家族への看護について課題を明確化する】 ・在宅療養者と家族への看護について関心のある課題について文献検討やフィールドワークを行い、それらを自己の実践と重ねながら、課題解決に必要な方法について議論する。</p> <p>21-30回 【精神の健康を高めることに資する研究課題と研究方法を検討する】 ・先行研究を精読しクリティックすることを通して、人々がどのような状況でも自らの精神を健康に働かせることができる支援に繋がる看護職者の課題を探る。 ・あらゆる人々の精神の健康を高めることに資する研究課題と研究方法を検討する。</p>
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護実践を説明する自己の考え方を明確化できる。 2. 地域看護における研究方法について理解する。 3. 地域看護の展開においてPDCAサイクルを基盤とすることの意義を理解する。 4. 地域包括ケアシステムや在宅療養者と家族への支援について、看護職の果たす役割や課題について考察する。 5. 精神の健康を高めることに資する研究課題と研究方法を検討する。
評価方法	授業への参加状況・プレゼンテーション (70%)、レポート (30%)
教科書	適宜紹介します
参考書・参考文献	適宜紹介します
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	履修者の専門性を踏まえ授業内容を考慮します。詳細は授業開始後、講義計画で提示します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎平野かよ子、中尾裕之、中村千穂子、松本憲子、高橋秀治			
授業の目的・概要	(オムニバス方式) 公衆衛生看護の歴史・理念、公衆衛生看護活動、地域の健康づくり、健康増進を目指した地域の活性化、ヘルスプロモーションの理念に基づいた保健活動、地域診断の考え方や診断結果の効果的な活用法について学ぶ。		
授業計画	1回 講義概要とオリエンテーション (平野) 科目のねらい、授業スケジュール 公衆衛生看護の歴史・理念 2－5回 公衆衛生看護活動における地域診断 (松本) ・公衆衛生看護活動の目的と対象 ・地域診断と診断結果の効果的な活用法 6－9回 地域の健康づくりとヘルスプロモーション (中村) ・ヘルスプロモーションの理念に基づいた保健活動 10－12回 地域社会づくりや予防的な健康支援 (高橋) ・健康格差、アドボカシー (advocacy)、CBPR: Community-Based Participatory Research 13－15 公衆衛生看護に必要な疫学と統計 (中尾) ・疫学指標 ・バイアスと交絡因子 ・基本的な統計量の性質 ・統計的有意差検定の考え方		
授業形態	講義、演習		
到達目標	1. 公衆衛生看護の歴史、理念を理解することができる。 2. 公衆衛生看護活動における地域診断と診断結果の活用ができる。 3. 健康教育に用いる基礎理論と展開過程について説明できる。 4. 他職種連携や地域住民とのコミュニケーションスキルを身に付ける。 5. 疫学と統計における、基本的な用語とその概念について説明できる。		
評価方法	講義・演習への参加状況 (50%) , 学習成果物 (50%)		
教科書	適宜提示する。		
参考書・参考文献	適宜提示する。		
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎平野かよ子、中尾裕之、中村千穂子、松本憲子、高橋秀治			
授業の目的・概要	<p>(オムニバス方式)</p> <p>公衆衛生に関するデータの文献講読・レビュー、健康支援についての実践演習、データ解析演習を行う。</p> <p>(平野) 公衆衛生看護活動の見せる化と活動の効果評価方法について演習を行う。</p> <p>(中尾) 統計解析ソフトウェアや表計算ソフトウェアを用いて、データ解析演習を行う。</p> <p>(中村) 健康教育の実践について、企画立案、指導案作成から、実施、評価について演習を行う。</p> <p>(松本) 公衆衛生看護活動における自己の課題に対する世界の動向、我が国の状況、および法的基盤やこれまでの活動状況について文献を用いて考察する。</p>		
授業計画	<p>1-2回 講義概要とオリエンテーション (平野)</p> <p>本科目のねらい、授業の進め方 公衆衛生看護活動の見せる化と活動の効果評価</p> <p>3-10回 健康支援の実践演習および評価 (松本)</p> <p>自己の実践活動に関する我が国の動向や施策を整理する。また、自己の保健活動に関するデータを用いて評価を行う。</p> <p>11-18回 文献講読および健康教育 (中村)</p> <p>行動変容理論を活用した健康教育に関する文献講読 健康教育企画書・指導案作成・実施・評価</p> <p>19-24回 公衆衛生看護活動における生活習慣病予防活動 (高橋)</p> <p>地域における生活習慣病予防活動に関する文献講読</p> <p>25-30回 データ解析演習 (中尾)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エクセルでのデータマネージメント ・EasyRを用いたデータ解析 ・SPSSを用いたデータ解析 		
授業形態	講義、演習		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データを用いて保健活動を評価することができる。 2. 行動変容理論を活用した健康教育の実践ができる。 3. 自分自身の健康支援法を行動変容理論に基づいて解析することができる。 4. 表計算ソフトウェアや統計解析ソフトウェアを使って、基本的なデータ解析ができる。 		
評価方法	講義への参加状況 (50%) , 講義内外での学習成果物 (50%)		
教科書	適宜提示する。		
参考書・参考文献	適宜提示する。		
履修条件	公衆衛生看護学特論を履修していること。		
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎長鶴美佐子 濱寄真由美 壹岐さより			
応用看護学分野	応用看護学特別研究	1～2年次	

授業の目的・概要	生命の連続性に関わる様々な健康問題や課題、支援の現状などから抱いた問題意識を整理し研究テーマとリサーチクエスチョンを設定する。それを踏まえ、十分な倫理的配慮がなされた研究計画書の作成、データ収集、論文の作成、公表と一連の研究過程をたどりながら、研究実践力を学ぶ。
授業計画	<p>I. 研究課題・テーマの設定 【1年前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の問題意識から研究課題を設定する。 2. 文献検討により研究課題の構造などを見きわめ、取り組む研究テーマを設定する。 3. 取り組む研究テーマの研究の概念枠組みまたはリサーチクエスチョンを設定する。 <p>II. 文献検討に基づく研究計画の立案 【1年前期～後期】 必要かつ十分な文献検討に基づき、研究計画の立案を行う</p> <p>III. 研究手法の理解 【1年前期～後期】 取り組む研究テーマに応じた研究手法に関する理解を深める。</p> <p>IV. 研究倫理申請と審査 【1年後期】 立案した研究計画について、研究倫理審査を受けるための書類を作成し審査を受ける。</p> <p>V. データ収集と分析 【1年次後期～2年次前期】 関係機関との連携を取りながら、データ収集を行う。必要なデータ分析方法の学習を行いながらデータ分析をすすめる。</p> <p>VI. 研究論文作成 【2年次後期】 研究成果を論文としてまとめる。</p> <p>VII. 研究成果の審査と発表 【2年次後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の審査をうける。 2. 研究成果を修士論文発表会にて発表する。 3. (主要な学会発表に向けてエントリーを行う。)
授業形態	個別指導
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の問題意識を整理し、研究課題・テーマを設定することができる。 2. 必要かつ十分な文献検討を行い研究計画を立案できる。 3. 適切なデータ収集・分析ができる。 4. 研究成果を論文としてまとめ、発表することができる。
評価方法	研究に取り組む姿勢 (50%)、研究成果 (40%)、プレゼンテーション (10%) にて評価する
教科書	なし
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	母性看護学・助産学特論および母性看護学・助産学演習科目の単位を取得していること (又は見込みであること)
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	状況によっては受講生と相談の上で遠隔授業を行うことがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎久野暢子			

授業の目的・概要	健康障害を抱える成人とその家族への看護援助に焦点を当て、質の高い看護援助を目指した看護ケアの開発等に関する論文指導を行う。研究遂行にあたって必要な倫理的配慮がなされるよう指導する。
授業計画	<p>1回 【ガイダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要、授業計画など <p>2-50回 【研究課題の明確化～研究計画書作成、研究倫理審査の申請】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の研究課題に関連した文献のクリティーク並びに先行研究の総括 ・研究課題と研究目的の明確化 ・研究デザインの選択 ・研究方法の設定 ・以上を踏まえた研究計画書の作成と研究倫理審査の申請 <p>51-100回 【データ収集及び分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理審査で承認された研究計画に則った研究データの収集と分析 <p>101-150回 【研究論文の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究目的に照らした研究データの分析と考察 ・研究論文全体の構成の検討 ・一貫性を持った論述 ・以上を踏まえた研究論文の作成
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己の研究課題に適した研究目的・方法を設定し、倫理的配慮をもって研究データを収集できる。 2 得られたデータを研究目的に照らして分析・考察し、一貫性を持って論述できる。 3 科学的・客観的・倫理的な態度で研究に取り組むことができる。
評価方法	研究論文作成への取り組み、研究論文の内容、論文審査でのプレゼンテーションと質疑
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
開講せず	1～2年	10	選択
担当教員			
◎重久加代子			

授業の目的・概要	社会的自立を果たした人々が、加齢変化や健康上の問題を抱えながら、自分の持てる力を生かしてQuality of lifeの維持・向上を実現するための看護について研究指導を行う。また、研究の倫理指針に基づいて倫理的配慮を行い、実施上の問題に適切に対処しながら、研究のプロセスを学び論文を作成する。		
授業計画	4月～5月	「ガイダンス・研究計画書に基づいてデータ収集」 研究計画書に基づき、研究実施の準備状況、今後の計画を発表する。 調査の準備を行う。 調査を開始し、データを収集する。	
	6月～7月	「データの分析」 収集したデータを整理する。 データを分析する。	
	8月～9月	「結果の整理」 結果を図、表にまとめる。 論文の構成を検討し、結果まで（序章・文献検討・研究方法・結果）を記述する。	
	10月～11月	「考察の記述」 分析した結果と文献検討の内容を比較検討する。 文献を用いて、考察を行う。	
	12月	「論文の作成」 論文の構成に基づき、論文を記述する。 図、表、資料を見直し、完成する。	
	1月～3月	「論文の完成」 論文を見直し、完成度を高める。 図、表、資料を見直し、完成度を高める。 審査（発表）のためのパワーポイントを作成する。 論文を完成する。	
授業形態	集中講義・演習		
到達目標	1. 研究計画書に基づき、データ収集を行う。 2. 収集したデータを分析する。 3. 研究目的に沿って分析した結果をまとめ、記述する。 4. 分析した結果について文献を用いて考察し、記述する。 5. 論文を完成する。		
評価方法	授業への取り組みと課題の達成状況で評価する。		
教科書	特に指定しない。		
参考書・参考文献	随時提示する。		
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ	倫理指針に基づいて、課題と真摯に向き合い、論文を完成できるように取り組みましょう。		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎小野美奈子、川原瑞代、川村道子			

授業の目的・概要	健康社会づくりや、在宅療養支援、精神的援助を必要とする人々への自立支援における、自己の問題意識を社会の現状や先行研究に照らして課題を焦点化する。課題解決のためにふさわしい研究方法を選択し、研究対象者への倫理上の配慮を行い、倫理的妥当性を持った研究計画立案、データ収集・分析の過程の個別指導を行いながら論文作成を支援する。 (小野) 家族支援、地域での看護に関する研究 (川原) 在宅ケアに関する研究 (川村) メンタルヘルス、精神疾患患者の退院支援に関する研究		
授業計画	1～10回	研究課題の明確化 自己の問題意識に沿って文献検討を行い、研究課題を焦点化する。	
	11～30回	研究計画の立案 ・研究デザインを選択する。 ・研究フィールドの調整と対象者の選定を行う。 ・データ収集方法及びデータの分析方法を検討する。 ・プレテストを行う。 ・研究計画書を作成する。	
	31～40回	研究倫理申請書の作成と倫理審査を受ける ・研究倫理申請書の作成と倫理審査を受ける。 ・審査結果を基に、研究計画内容の修正を行う。	
	41～120回	研究の実施 ・研究計画にそって倫理的配慮を行いながら計画を実行する。 1. 研究協力の依頼する 2. 倫理的配慮を行いながらデータを収集する 3. 信頼性、妥当性をたかめながらデータを分析する 4. 結果を解釈する 5. 考察する	
	121～150回	修士論文の作成 ・緒言から考察までの一連の流れで、論文を作成する。	
授業形態	演習・研究		
到達目標	1. 自己の問題意識を社会の現状や先行研究に照らして課題を焦点化することができる。 2. 課題解決のためにふさわしい研究方法を選択し、研究計画を立てることができる。 3. 研究計画に沿って、研究を実施し、論文を完成することができる。		
評価方法	研究計画書（15%）、研究方法の的確さ（15%）、最終論文（70%）		
教科書	適宜提示する		
参考書・参考文献	適宜提示する		
履修条件	地域・精神看護学特論及び地域・精神看護学演習を履修していること		
科目等履修	不可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～2年	10	選択
担当教員			
◎平野かよ子、◎中尾裕之、◎中村千穂子、◎松本憲子			
授業の目的・概要	個人や集団に関する健康問題に関して、公衆衛生看護の視点をもって、研究計画を立案し、論文の作成を行う。 （平野）公衆衛生看護活動の質的な評価方法をテーマとし、できるだけ実践者と協働する研究的な取り組み方法を学び、論文を作成する。 （中尾）健康問題の把握、健康課題への対策の検討、実施した対策の評価に関することを研究テーマとして、データを収集・分析し、論文を作成する。 （中村）ヘルスプロモーション活動の推進をめざし、地域診断や活動評価について分析し、論文を作成する。 （松本）個人や集団また、地域における保健活動そのものを研究対象とし、これからの公衆衛生看護に必要な知見を見出すことを目的として、研究論文を作成する。		
授業計画	1-45回 研究計画の立案 研究計画の立案 文献検討，データ収集方法の検討，関係機関との調整，倫理審査 46-90回 データ収集 文献検索・整理，インタビュー実施・入力，調査票配布・回収・入力 91-120回 データ分析・結果の考察 解析，テーブルの作成，結果の解釈，文献再検討，考察 121-150回 論文作成 考察，方法，結果，イントロ，参考文献，要旨の作成		
授業形態	研究		
到達目標	1. 文献検討によって，最新の研究動向を把握することができる。 2. 妥当で信頼性が高く，そして，実施可能な研究計画を立案できる。 3. 最新の研究動向をふまえて，分析結果を考察することができる。 4. 論文を作成することができる。		
評価方法	論文		
教科書	適宜提示する。		
参考書・参考文献	適宜提示する。		
履修条件	公衆衛生看護学特論および公衆衛生看護学演習を履修していること。		
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎山岸仁美			
		2 Semester	30時間

授業の目的・概要	看護は、人々と看護職者との直接的な関わり（原基形態）を核とする広範な実践活動で、さまざまな問題が発生して研究的な取り組みを要求してくる。その際の研究方法は、それら問題の性質に応じて選択され、得られた成果は「看護研究」として発表され実践に活用されることになる。 本講義では、個別科学としての看護学の発展に寄与する学術的な研究方法論について追究する。また、看護現象から看護問題を浮き彫りにできる研究素材の作成法、研究素材から看護学的論理を抽出する科学的抽象能力を訓練し、看護学上の知見を抜き出す方法論について講義する。
授業計画	1回 【オリエンテーション 研究の意義とは何か】 研究するとはどのようなことなのか、その特徴について概括し、本授業科目の学習課題を提示し、看護学研究について討議する。 2回 【看護学研究の対象】 看護現象は、どのような構造をもっているか、看護の原基形態とは、を踏まえて、看護学研究の対象について討議する。 3回 【研究方法は研究対象に規定される】 研究目的と研究対象とのつながりから、研究方法をどのように決定していくのかについて、討議する。 4-9回 【研究素材の作成】 自己の看護実践上の問題状況について記述し、相互に質疑応答を重ねながら事実関係を確認、研究素材としてまとめる。 10-14回 【論理分析法について】 質的研究方法として、科学的抽象法とグラウンデッド・セオリー・アプローチについて理解する。 各研究素材をもとに、自己の問題意識に照らして、論理を取り出し、討議する。 15回 【まとめ】 一連の学修を踏まえて、再度、看護学研究について、討議する。
授業形態	講義
到達目標	1. 看護学の研究対象について理解する。 2. 看護現象の構造と研究素材化について理解する。 3. 質的研究について理解する。
評価方法	授業への参加度（60%）およびレポート（40%）より総合的に評価する
教科書	『ナースのための質的研究入門 第2版』ホロウェイ、ウイラー：野口美和子監訳、医学書院 その他、資料については随時配布する
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称：看護管理学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎鶴田恵子、平野かよ子			

授業の目的・概要	看護管理学の諸理論及び看護管理過程について学修し、看護管理のあり方を探求する
授業計画	<p>1-3回 ガイダンス、看護サービス管理とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・看護サービス管理とは何か ・看護サービス管理の基礎 ・看護サービス管理の要素とプロセス <p>4-6回 日本の医療と介護の提供システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の医療と介護サービスの提供システム(1) ・日本の医療と介護サービスの提供システム(2) ・地域包括システムと看護管理 <p>7-9回 看護行政と看護政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護行政のしくみと看護政策(1) ・看護行政のしくみと看護政策(2) ・看護行政のしくみと看護政策(3) <p>10-15回 看護サービス管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスの質保証 ・看護サービス管理におけるリスクマネジメント ・看護と情報管理のシステム ・看護キャリア開発 ・看護倫理と看護サービス管理 ・看護サービス管理における教育と研究
授業形態	授業は、講義、プレゼンテーション、テーマを中心にディスカッションを重視する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理の課題を解決するために、既存のシステムのみならず新たなシステムを構築し、マネジメントできる方策について説明することができる。 ・看護政策の現状と策定過程を説明することができる。
評価方法	授業への積極的な取り組み（発言）40%、プレゼンテーションの内容と態度、課題レポート60%
教科書	「看護サービス管理」第5版 小池智子、松浦正子、中西睦子編集、医学書院、2019
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称：看護倫理

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎島内千恵子、毛利聖子、吉田みつ子、野間口千香穂、重久加代子、久野暢子、栗原保子、岩江荘介			
		2 Semester	30時間

授業の目的・概要	看護倫理の基本について歴史的に理解し、実践現場で活用できる倫理的判断能力と問題解決技法および研究倫理について学ぶ
授業計画	<p>1-2回 看護倫理の基本、歴史（毛利）</p> <p>3-6回 看護倫理一語り・意味・ケアの探求からのアプローチ 看護実践の中にある倫理（吉田）</p> <p>7回 小児の倫理的課題および看護研究倫理（野間口）</p> <p>8-9回 遺伝医療における倫理的課題（野間口）</p> <p>10回 老年期・終末期における倫理的課題（重久）</p> <p>11回 HIV感染者をめぐる倫理的課題（久野）</p> <p>12回 看護教育における倫理的課題（栗原）</p> <p>13回 感染看護における倫理的課題（島内）</p> <p>14-15回 研究倫理（岩江）</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理の基本について、歴史的に理解することができる。 2. 倫理的課題とその解決技法について、理解することができる。 3. 研究倫理について、理解することができる。
評価方法	提出課題（事前学習）レポート 40% 授業への参加状況（討論・発表）60%
教科書	随時、紹介する。
参考書・参考文献	随時、紹介する。
履修条件	—
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	授業の順番・実施日は変更することがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎菅野幸子			
			1 Semester
			30時間

授業の目的・概要	「人間にとっての栄養とは」を講義する。栄養と生命活動及び人間生活にかかわる科学的な事実をもとに健康を支える栄養のあり方について考え、「何をどれだけどのように食べたらよいか」について学ぶ。食情報を受発信できる力を身につけ、地域社会や病院など、様々な環境の中で生きている人々への栄養をとおした支援に活用できる力を修得する。
授業計画	<p>1-2回 【人間栄養学概論 人間栄養学を学ぶ目的を明確にする】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間にとっての栄養とは 栄養・食生活の変遷と近年の問題点 生活習慣と健康 食育 <p>3-6回 【栄養の営みと食物】</p> <ol style="list-style-type: none"> 食品に含まれる栄養素の人体での働き 食品の機能、食品の成分、栄養価、食品群 食事・料理・食品・栄養素の階層性 食行動 おやつ行動 食べるきっかけ 調理 食事づくり お弁当箱ダイエット法 食品に含まれる栄養成分とその役割 <p>7-8回 【健康のために「何をどれだけどのように食べたらよいか」：評価基準の活用】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人体のエネルギー代謝 食事摂取基準 四群点数法 食生活指針と食事バランスガイド <p>9-12回 【栄養素の体内利用（代謝）と栄養アセスメント】</p> <ol style="list-style-type: none"> すべての細胞でおこなわれている栄養素の【摂取－自己化－排出】の過程を物質の変化でとらえる 栄養状態を評価する方法と活用 <p>13-15回 【実践栄養 栄養教育 栄養管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 食行動の変容をめざした支援と方法について チーム医療、NST、高齢者の栄養
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 栄養と生命活動および人間生活にかかわる科学的な事実をもとにして、健康を支える栄養のあり方について考える。 人体における栄養素の代謝について理解する。 食物や調理、食行動等について理解を深め、自分の食生活に活かす体験を重ねる。 「何をどれだけどのように食べたらよいか」の評価基準について、根拠や活用を学ぶ。 食行動の変容をめざした支援と方法について学ぶ。 栄養管理の実際とその意義を学ぶ。
評価方法	授業への参加状況(30%)、毎回の授業後の課題レポート(70%)
教科書	講義テキストを開講時に配布
参考書・参考文献	講義テキストを開講時に配布
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称：科学史

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎浅野昌充			
		2 Semester	30時間

授業の目的・概要	人類がものごとを科学として究明して来たその一般的な過程的構造を捉え、学問とは、科学とは、そしてその方法を理解していく。特に、自然研究を題材に運動・変化・発展としてあるものごとをその断片から正しく頭脳に構成していく能力である「弁証法」と「認識論」とを、それぞれの初歩から養成していく。
授業計画	<p>1-4回 【科学としての弁証法の歴史】 学問の発展史における自然科学に焦点を当てて、世界史の中で概観し、弁証法の諸概念・諸法則を具体的に、わかりやすく学んでいく。</p> <p>5-10回 【自然科学の歴史】 物理・化学・生物のいずれかに焦点を当て、人間の自然の弁証法的理解の流れを概観する。</p> <p>11-14回 【法則化の理解】 事実に貫かれる法則性がどのようにたぐられるかを、自然科学史上のエピソードなどから見ていく。</p> <p>15回 【総括】</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学史に関わる知識を一般教養化する。 2. 自然科学の法則の導出（＝論理化・法則化）過程を理解する。 3. 「弁証法」の基本を身に着ける。
評価方法	講義への取り組みおよび最終課題
教科書	講義・ゼミの時に指示。
参考書・参考文献	講義・ゼミの時に指示。
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	合わせて、各人の個々の研究それぞれに役立つよう、研究方法論としてもゼミ形式で授業を進めていく。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎中尾裕之			

授業の目的・概要	看護研究と看護実践に必要と考えられる疫学的な考え方と基本的な統計的方法について学ぶ。		
授業計画	1-2回	疾病頻度の測定 曝露と疾病 疫学指標 相対危険と寄与危険	
	3-5回	疫学研究方法 記述疫学，生態学的研究，横断研究 コホート研究 症例対照研究 介入研究 各研究方法の利点と欠点	
	6-7回	偏りと交絡 偶然誤差とバイアス 交絡因子とその制御 標準化	
	8回	スクリーニング	
	9-10回	データの種類と記述的解析 データの種類と特徴 数量データの記述的解析 質的データの記述的解析 統計グラフの作成	
	11-14回	統計学的推論 推定と検定 平均の推定と検定 割合の推定と検定 相関と回帰 標本サイズ	
	15回	一貫性 カッパ統計量 Cronbachのアルファ係数	
授業形態	講義		
到達目標	①基本的な疫学手法について理解し，応用できる。 ②基本的な統計手法について理解し，結果について解釈できる。		
評価方法	講義への参加状況（50%），講義内外での学習成果物（50%） ※評価規準・基準は最初の授業で配布		
教科書	中村好一：『基礎から学ぶ楽しい疫学』医学書院 中村好一：『基礎から学ぶ楽しい保健統計』医学書院		
参考書・参考文献	医療情報学研究所編：『公衆衛生がみえる』メディックメディア		
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称：情報学特論

授業コード：

英文科目名称：informatics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎長坂猛			

授業の目的・概要	<p>先行研究の論文を読むときや、自分の研究をまとめる過程で必要となるような情報処理の基礎的な手法について学ぶ。文献検索、文書表現、基本的な統計量の計算、プレゼンなどについて、パソコンを用いた授業を行う。</p>		
授業計画	1-3回	<p>概論と基本操作 ワープロソフトと集計ソフトの基本操作 報告レポートの構成 ネットワークやサービスの基本 文献検索</p>	
	4-15回	<p>データ集計と分析 データスタイルとグラフ描画・誤差表現 パレート図・度数分布図の作成と分析 移動平均によるバンドパスフィルター 指数化・変化率・寄与率などの数値指標計算 t検定・χ^2検定・分散分析 相関・回帰直線の信頼区間 Rを用いた計算と描画 スライド作成、画像編集など</p>	
	16回	<p>試験（もしくは課題演習）</p>	
授業形態	パソコンを使用した演習が中心		
到達目標	<p>(1) よく利用する機材やシステムなどの基本的な機能について知る。 (2) ソフトウェア間の連携を意識して、資料化やプレゼンの能力を向上させる。 (3) データ集計の技法を通して、分析能力を養う。</p>		
評価方法	<p>授業および課題への取り組みによって評価する。 成績評価＝参加姿勢（出席による）30%＋課題の提出70% 課題で重視する点：(1)課題の作成に演習内容が反映されているか、(2)分析や表現に工夫がなされているか</p>		
教科書	とくに指定しない		
参考書・参考文献	とくに指定しない		
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎小河一敏			
		2セメスター	30時間

授業の目的・概要	ナイチンゲール著『看護覚え書』序章に説かれている「生命の法則」を「生体と環境との統一」という視座から理解する。
授業計画	<p>1回 【何故、「自然観」か —生命を守るために宇宙・地球を学ぶ意義—】 「個別科学としての看護学の構造」（『科学的看護論』）の土台には「自然観」が据えられている。これを具体的に表象化した図が『ナースが視る人体・病気』冒頭に掲載されている。ナイチンゲール看護論において、生命を守るために宇宙・地球というスケールの自然観から学ぶのは何故か、大きくイメージする。</p> <p>2-7回 【「健康の法則、すなわち看護の法則」を生活からつかむ —『看護覚え書』各論—】 本学学部学生が『看護覚え書』各論を日常生活を通して学んできた過程を題材に、「健康の法則、すなわち看護の法則」を「生体と環境との統一」という視座から学ぶ、または教える過程の構造をつかむ。</p> <p>8-9回 【「生命の法則」を生活からつかむ —『看護覚え書』総論—】 本学学部学生が『看護覚え書』序章・おわりにを、「健康の法則、すなわち看護の法則」の学びを土台に学んだ過程を題材に、「生命の法則」の実態を学ぶ、または教える過程の構造をつかむ。</p> <p>10-11回 【「生命の法則」から「健康の法則、すなわち看護の法則」を体系化する —人間観・生活観・健康観—】 本学学部学生が『看護覚え書』の学びを体系化した過程を題材に、「看護観」の土台となる「人間観・生活観・健康観」が築かれていく過程の構造をつかむ。</p> <p>12-14回 【『看護覚え書』から『看護学原論講義』へ —「人間の生活一般」の12項目—】 『看護覚え書』に基づいて築かれた「人間観・生活観・健康観」を、『看護学原論講義』（特に対象論）に基づいて深めていく。</p> <p>15-16回 【総括 —環境科学生命科学の学びとは—】 宇宙・地球スケールの「自然観」から「人間観・生活観・健康観」を築いてきた過程が、どのように看護ないし看護学教育に役立っていくか考察する。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「自然観」を土台に『看護覚え書』にある「健康の法則、すなわち看護の法則」を生活からつかむ。 2. 『看護覚え書』序章・おわりにから「健康の法則、すなわち看護の法則」をとらえ返し、「生命の法則」をつかむ。 3. 『看護覚え書』の学び（1.2.）を体系化し、看護観の土台となる「人間観・生活感・健康観」をつかむ。
評価方法	<p>【評価規準】 授業への参加状況（60%）、レポート（40%）</p> <p>【評価基準】 S：「生活の体系像」を主体的に他者に指導・教育可能なレベルに達している。 A：「生活の体系像」構築過程を理解し、同僚・後輩スタッフ・患者・学生等へ指導でき始める。 B：「生活の体系像」が理解でき、自らの生活を健康にコントロールできる。その内容を根拠立てて他者に伝えられる。 C：「生活の体系像」が描かれ、安定的に自らの生活を健康に整えていくこと（セルフケア）ができる。 D：Cに達しないレベル。</p>
教科書	『看護覚え書』ナイチンゲール著（訳本）、現代社 『看護覚え書』に学ぶ生活科学ガイドブック教員用 小河一敏 著、(株)アノック
参考書・参考文献	『看護のための「いのちの歴史」の物語』本田克也他、現代社 『弁証法とはどういう科学か』三浦つとむ著、講談社 『三浦つとむ選集5 ものの見方考え方』三浦つとむ著、勁草書房 『なんごうつとむまさか説く看護学科・心理学科学生への“夢”、講義(1)・(2)』南郷継正著、現代社 その他は授業で提示する。
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	2021年度授業は、2021年8月—9月の夏休み期間、ないし2022年2月—3月の春休み期間の集中講義を予定。履修者の都合により、開講時期・時間はフレキシブルに対応する。本学導入システムTeamsを用いた遠隔授業も可（2020年度は全16回を遠隔授業で実施した）。
備考・メッセージ	『看護覚え書』は看護者であれば知らない人はいない書のように思いますが、しっかりと読みこんだ方は実は少ないということを、これまで多くの看護者から聞きました。19世紀の古典で訳文も難しく無理の無いことかもしれませんが、しかし、本学の学部生は理解できています。この授業では彼らの学びの過程を見ながら、つまり初心に戻っていただいて学生の学びを観念的に追体験していただくことによって、『看護覚え書』を学び直していただきます。そうすると、難解…と思われていたはずの文章が、意外にあっけなく…「なんだこういうことだったのか」と納得されることとなります。是非、楽しんで学んで下さったら…と願っています。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
◎串間敦郎			
		2 Semester	30時間

授業の目的・概要	健康の保持増進には、適度な運動が必要である。また疾病や障害によっては、回復から復帰にかけても必要となってくる。そこで本授業では医療と運動の関わりをふまえて、健康と運動の関係、身体機能と運動のかかわり等について教授する。そして、運動不足で起こる疾病や運動時に起こしやすい障害の予防法、運動処方を中心としたリハビリの方法等についても実践し修得していく。その際医療で使われている身体運動の測定に必要な機器を用いて、その評価の方法や運動指導法についても教授する。
授業計画	<p>1回 【オリエンテーション及び講義「健康体力医学と運動科学について」】 今後の授業の展開についての説明 授業を進めていく上で必要な体力医学的な知識について教授する。 新型コロナウイルス感染状況次第では、7回までの授業についてはオンライン等で実施することがある。</p> <p>2-7回 【健康と運動の関わりについて（理論編）】 関連する論文または書籍を輪読し、それについて検討を加え理解を深める。</p> <p>8-14回 【健康と運動の関わりについて（実践編）】 これまで学修してきたことをふまえ、体力医学の評価方法や運動の指導法について学習する。内容は以下に示す項目である。</p> <p>1 リハビリテーションに関する運動 ・ストレッチング ・転倒予防体操 ・エアロバイク ・ジムニックボール ・ウォーキング 等 またこれらの運動を実行する際に、姿勢評価、足圧計、筋電図、最大酸素摂取量等の測定を行う</p> <p>2 患者やアスリートのケア ・テーピング ・マッサージ ・リハビリの実際</p> <p>3 運動指導法 ・トレーニングの方法（コーチング理論の適用） ・運動技術の修正法</p> <p>新型コロナウイルス感染状況次第では、14回までの授業についてはオンライン等で実施することがある。</p> <p>15回 【まとめ】 これまでの演習内容のまとめと運動処方について</p> <p>16回 【評価（レポート提出）】</p>
授業形態	講義及び演習（新型コロナウイルスの感染状況次第では、遠隔授業を実施する場合がある）
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動することが健康に必要ななぜ有効なのか理解する。 2. 運動の効果について、その根拠について理解する。 3. 自己や若年・成年・老年、アスリート、患者、障がい者等の多様な対象者の体力や身体の状態を客観的に評価し、運動処方を作成する。
評価方法	測定した各自のデータをもとに、健康増進・体力向上に関するレポートを提出 授業への参加状況(30%)、レポート(70%)
教科書	授業時に指示
参考書・参考文献	授業時に指示
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称：英語特別演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎川北直子、Joel Hensley			
		1 Semester	30時間

授業の目的・概要	1. To practice reading journals in English 2. To practice academic writing skills in English
授業計画	1-3 【Intro to class How to do find journal articles (printed / online) How to do thesis search Selected readings and discussion of the topic】 Learn how to search articles in the library and online 4-14 【-Study individual reading topic given to each student-Oral review of individual reading topics】 Read full paper individually or in a group and review readings orally. 15 【Intro to writing abstracts and full paper in English】 -Learn basic rules of writing academic paper in English -Write abstract and references using sample paper. Details of syllabus will be discussed with each student. Syllabus may vary according to student needs and English reading and communicational levels.
授業形態	講義
到達目標	1. To be able to find journal articles written in English independently 2. To be able to read journal paper in the professional area 3. To learn English expressions for academic purposes 4. To learn basic rules for writing paper and abstract
評価方法	1. Contribution to the class based on reading assignments 80% 2. Written Work 20%
教科書	Articles from professional nursing journals (purchase not necessary)
参考書・参考文献	
履修条件	—
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	We will make arrangement about time schedule individually. Participants are required to do reading assignment every week.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎大館真晴			

授業の目的・概要	日本語表現能力の向上を目的とする。母語によるコミュニケーション能力は、理解力・論理的思考力・伝達力などを総合的に必要とし、物事と直面する際の基礎となる能力である。この授業では、実践的にこれらの能力を向上させていきたい。
授業計画	<p>第1回 【会話と文章】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会話と文章の区別の理解 3. 考えを文字化する訓練 <p>第2回 【文章の分類】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的によって異なる文章区分の理解 2. 読み手が期待する文章を書く訓練 <p>第3回 【事実と意見の区別】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「事実」と「意見」の書き分け 2. 「判断」と「客観性」についての理解 <p>第4回 【適切な語の選び方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 曖昧さを避けた表現の習得 2. 感情表現を避ける技術の習得 <p>第5回 【読み手が理解しやすい文】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正しくしく伝わる文の基本法則 2. 読み手に負担をかけない視点のとり方 <p>第6回 【読み手の期待に添って展開する文章】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文と文を上手につなげる技術の習得 2. 読み手を引きつけながら展開する文章作法の習得 <p>第7回 【文体の統一】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理論的な文書に求められる文体の習得 2. 文末表現以外でなければならない文体の統一 <p>第8回 【読点の打ち方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読点の役割の理解 2. 読み誤りがないように読点を利用する技術の習得 <p>第9～15回 【レポート・論文の書き方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な「型」の習得 2. 基本的な「型」を使った実践訓練
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章構成能力の養成 2. 適切な用語の選択と、正確な語法を用いる能力の養成 3. 合理的で適切な手段を選択する能力の開発などを行う <p>上記のを行いつつ、日本語表現力とともに、論理的思考能力・問題解決能力を磨くことを最終目標とする。</p>
評価方法	授業内外での学習成果物（50%） 課題レポート（50%）
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
履修条件	特になし
科目等履修	特になし
履修上の留意点	特になし
備考・メッセージ	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎佐藤 信人			

授業の目的・概要	社会保障制度に関して相談援助を行う上での基礎知識を学び、自立支援の対人援助の姿勢を獲得する。		
授業計画	第1回	イントロダクションと現代社会における社会保障 (講義テーマと到達目標；社会保障の意味の理解)	
	第2回	人口構造の変化と社会保障	
	第3回	社会保障制度の構造・概要	
	第4回	社会保障制度の機能	
	第5回	公的介護保険① 制度の仕組み	
	第6回	公的介護保険② ケアマネジメント 1	
	第7回	公的介護保険③ ケアマネジメント 2	
	第8回	医療保険制度① 制度の仕組み	
	第9回	医療保険制度②	
	第10回	年金保険制度	
	第11回	労働保険制度	
	第12回	公的扶助制度	
	第13回	社会手当	
	第14回	まとめのための講義のリフレクション	
	第15回	総括	
授業形態	集中授業とし、応協議		
到達目標	クライアントが利用できる社会保障を知り、活用していないクライアントを発見し、役立てることができるような相談援助ができるようになる。		
評価方法	レポートにより評価		
教科書	適宜、教員が準備して配布する。		
参考書・参考文献	必要に応じて紹介する。		
履修条件	社会保障制度に関心があること。		
科目等履修	不可		
履修上の留意点	社会保障制度の仕組み及び利用手続きは多くの場合、煩雑である。それを駆使するための一方的な講義ではなく、クライアントの困難を共有し、自立支援を図るために如何に社会資源を利活用するか、その一つとして社会保障を理解するために基礎知識の理解を踏まえた対話・参加型の授業とする。		
備考・メッセージ	自らの意見をもった人間となるため学びあう。		